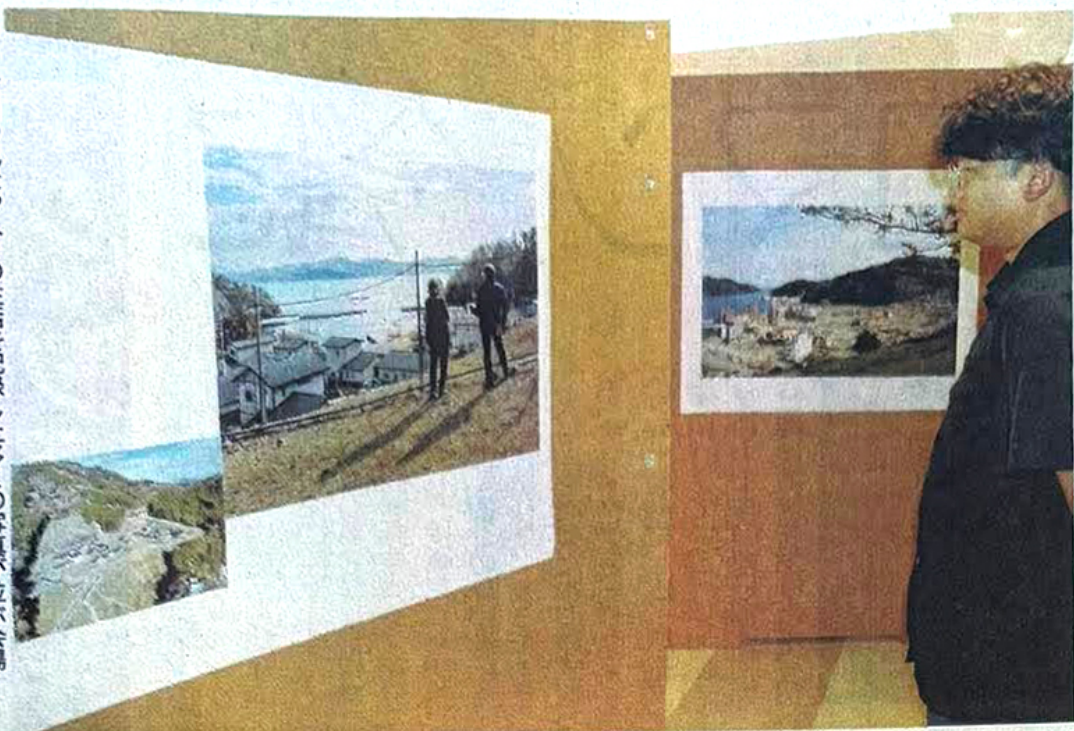


女川の風景や人々の生活を記録した多くの写真が並ぶ会場



作家鈴木さん、故郷で作品展

女川とは写真で迫る

復興、家族切り取る

女川町出身の写真作家で、日大芸術学部写真学科准教授の鈴木麻弓さん(48)「東京都」が7日から、女川の歴史をなぞり、掘り下げる写真展「The Times gift: HOME」を町役場ロビーで開く。25日まで。

「故郷とは何か」という



鈴木麻弓さん

テーマを軸に、鈴木さんが東日本大震災後から女川に通い続けて撮影した作品など計16点を展示する。災害公営住宅が整備された宮ヶ崎地区のドローン空撮、仮設住宅前で撮影した家族写真、尾浦湾で操業する漁業者の日常を切り取った作品などが並ぶ。

鈴木さんの実家は町内にあった写真館。東日本大震災の津波で流失し、両親も亡くした。写真展には父が残した写真も並ぶ。

「写真館の3代目として

女川と関わり、撮影を続けてきた」という鈴木さん。

「女川には震災だけでは語りきれない時間や人々の営みの重なりがある。それを(作品を)見る人それぞれの記憶と重ねてもらいたいながら、故郷とは何かを感じてもらいたい」と話す。

展示は午前8時半～午後

9時。入場無料。鈴木さんは10日まで在廊する。連絡先: info@mayumisuzuki.jp

町生涯学習センターホールでは8日、それぞれ持ち寄った写真を見ながら思い出を共有する参加型のワークショップと、鈴木さんを交えたトークセッションが行われる。

町制施行100周年記念事業として町民有志らの実行委員会が主催。午前10時～午後3時。参加無料。連絡先は本のさかい0225(53)3208。平日午前10時～午後5時。

手足口病拡大 石巻でも急増

感染症週報

県は6日、感染症の定点

把握による1週間(7月27日～8月2日)の発生動向を公表した。手足口病は県全体で301人(前週257人)、1医療機関当たり